

enocoのそうだん [eno so done!]

相談シート19 ボランティアは活動の種類や関わりの深度にバリエーションを

[トップ](#) >> [enocoのそうだん \[eno so done!\]](#) >> 相談シート19

アドバイザー

忽那裕樹 (enocoプラットフォーム部門チーフディレクター/E-DESIGN代表)

1966年大阪府生まれ。庭園をはじめ公園や広場、大学キャンパス、商業・集合住宅・病院などのランドスケープのデザインとプログラムを国内外で展開。また、パークマネジメント、タウンマネジメントを通して、地域の改善や魅力向上に様々な立場で関わっている。enocoのプラットフォーム形成支援事業を手掛けるとともに、民主導の水と光のまちづくり推進組織「水都大阪パートナーズ」のプロデューサーとして数々の事業の企画・運営を推進中。



相談者

鶴見区役所総務課魅力創造担当

相談分野 (キーワード)

地域活性

市民協働

観光

まちづくり

文化

広報・PR

その他

主な相談内容

区民と区役所の共催事業である「鶴見活性化楽園会議」について、モチベーションを高める工夫についてアドバイスをいただきたい。
 区民企画型イベントの新たな人材を発掘するコツとは。

Q1

ボランティアの人材発掘の方法とモチベーションを高める工夫について。

A1

ボランティアを掴むコツ

1) もうひとつのテーマ設定を行う。例えば直接の目的だけでなく、子供を自由にすることができて、ほっとできて、話せる時間がありますよ!とすると、子育て層が集まってきます。

- ・決まったイベントをやらされる、という感じを無くす。
- ・いつかは全部の夢を叶えますというスタンスを見せる
- ・テーマは絞ったほうが、的確な人材が集まる
- ・スキルが身につく学習の機会をつくる

2) テーマを絞り込む方法

イベントで人が集まった時に、「困っていることは何ですか?やりたいことは何ですか?」とヒアリングを行いましょう。

- ・イベント(ワークショップ等)の過程で自分のやりたいことを引き出していく。→その過程でその人のことが理解できて、役割配置がしやすくなります。
- ・選択できるほうがいい人、決めてくれた方がいい人など、いろいろなパターンに当てはまる役割を用意しておく必要がある。

ボランティア参加者を増やし、継続してもらうには、活動を選択制にする(3つ程度)、活動の関わり深度を分けること(コアメンバー、クラブメンバー、ピジターメンバー)。

Q 2

ボランティア募集広報のコツ

A 2

随時募集は絶対NGで、閉店セールを何度もして効果を出そうというのと同じです。それよりも「焦らし感」を出すこと。あとボランティアという名前はちょっと古い。聞いただけで公益性（震災支援など）が発揮されるのはOKだが、それ以外は、やらされてる感のイメージが根付いてしまったため、別の名称を考えたほうが良いと思います。そして募集要項には、事業のコンセプトを明記すること。次に、このような属性の人が集まっているなどの具体的な情報も効果的。コツは、コンセプトはちょっと抽象的だけど、やりたいことは具体的に明記すること。

相談者の声

役所の中では決して教えていただけないような貴重な情報や、大事な視点を示していただきました。

「夢を語りあう。夢を形にする。」「決まったことをやらされるのではなく、自由に楽しく意見を言える場（仕組み）を設けること、それ自体がイベントになる。」など、人が参加したくなるキーワードを念頭において、これからもいろいろな事業に挑戦していきたいと思います。

サイトポリシー・ プライバシーポリシー	> enocoについて > 事業紹介	> お知らせ・プレスリリース > メルマガ登録	いいね！ 0 ツイート	^
指定管理者	> フロアガイド > レンタルスペース	> ニュースレター > お問い合わせ		
バナー広告募集		> アクセス		